

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

12. 4. 2004

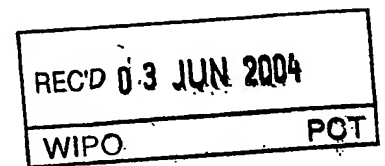
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 4月11日

出願番号
Application Number: 特願2003-107643
[ST. 10/C]: [JP2003-107643]

出願人
Applicant(s): 株式会社パークウェイ

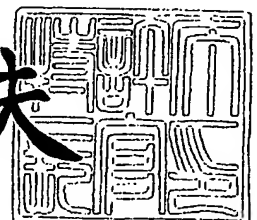


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 5月20日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 OTP03005
【提出日】 平成15年 4月11日
【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿
【国際特許分類】 A45D 19/06
【発明者】

【住所又は居所】 東京都世田谷区下馬 4 丁目 2 1 番 9 号 株式会社パーク
ウェイ内

【氏名】 波握 英珠

【特許出願人】

【識別番号】 395021860

【氏名又は名称】 株式会社パークウェイ

【代理人】

【識別番号】 100101557

【弁理士】

【氏名又は名称】 萩原 康司

【電話番号】 03-3226-6631

【選任した代理人】

【識別番号】 100096389

【弁理士】

【氏名又は名称】 金本 哲男

【電話番号】 03-3226-6631

【選任した代理人】

【識別番号】 100095957

【弁理士】

【氏名又は名称】 亀谷 美明

【電話番号】 03-5919-3808

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 040268

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9506627

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 染料カップ

【特許請求の範囲】

【請求項1】 染料を入れるための上面が開口したカップ部を有し、
カップ部の上端面もしくはカップ部の内面上方に、櫛歯が並べて設けてあることを特徴とする、染料カップ。

【請求項2】 前記染料がヘアカラーであることを特徴とする、請求項1に記載の染料カップ。

【請求項3】 カップ部の内面上方に凹部が形成され、この凹部に複数の櫛歯が並べて設けてあることを特徴とする、請求項1又は2に記載の染料カップ。

【請求項4】 カップ部の外側にカップ部を保持するためのハンドル部が設けてあり、該ハンドル部の基部近傍に前記櫛歯が設けてあることを特徴とする、請求項1、2又は3に記載の染料カップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ヘアカラーカップの如き染料を入れるための染料カップに関する。

【0002】

【従来の技術】

理髪店や美容院などにおいては、ヘアカラー（毛髪を染めるための染毛剤）を入れたカップを椅子に座った顧客の頭部近くに置き、理容師や美容師がブラシ等でヘアカラーをカップから掬い取って顧客の毛髪に塗布している。ヘアカラーカップに関し、例えば特開2000-316627号が公知である。

【0003】

【特許文献1】

特開2000-316627号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

塗布する際には、ブラシ等の先端のブラシ部をカップ内のヘアカラー中に一旦

浸し、それからブラシ部をカップ上端部などに押し付けて余計なヘアカラーを削ぎ落とし、ブラシ部の形を整えてから、顧客の毛髪に塗布するようにしている。従来のヘアカラーカップでは、このようにブラシ部から余計なヘアカラーを削ぎ落としたりブラシ部の形を整える際に、誤ってカップの外にヘアカラーを垂らしたり、あるいは、ブラシ部から削ぎ落とされたヘアカラーがカップ上端部から外側に垂れるといった問題を生じやすい。

【0005】

また、ブラシ等で顧客の毛髪にヘアカラーを塗布していると、毛髪（抜毛等）やほこりなどがブラシ等に付着することがあるが、その場合、ブラシ等にはみ出て付着した毛髪やほこりなどにもヘアカラーが付いてしまうので、そのまま塗布した場合、毛髪やほこりなどに付着したヘアカラーが、毛髪、頭皮以外の箇所にも付着し、顧客の顔や、肌、衣服を汚してしまうといった問題を生ずる。

【0006】

このような問題を回避するために、理容師や美容師は、塗布する際にブラシ等に付着した毛髪やほこりなどをいちいち手で取り除いているが、そうすると、理容師や美容師の手にヘアカラーが付着してしまう。また、そのようなヘアカラーが付着した手で触れることにより、顧客の顔や肌、衣服、あるいはその周辺を汚してしまうといった問題を生ずる。

【0007】

従って本発明の目的は、ヘアカラーカップの如き染料を入れるための染料カップにおいて、ブラシ等から余計な染料を削ぎ落としたりブラシ部などの形を整える作業が容易にでき、また、ブラシ等に付着した毛髪やほこりなどを手を汚さずに除去できるようにすることにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】

この目的を達成するために、本発明によれば、染料を入れるための上面が開口したカップ部を有し、カップ部の上端面もしくはカップ部の内面上方に、歯が並べて設けてあることを特徴とする、染料カップが提供される。前記染料は、例えばヘアカラーである。カップ部の内面上方に凹部を形成し、この凹部に複数の

櫛歯を並べて設けても良い。また、カップ部の外側にカップ部を保持するためのハンドル部を設け、該ハンドル部の基部近傍に前記櫛歯を設けても良い。

【0009】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施の形態を、図面を参照にして説明する。なお、この実施の形態では、理髪店や美容院などにおいて、毛髪を染めるためのヘアカラーを入れるヘアカラーカップについて説明する。

【0010】

図1～4に示すように、この実施の形態にかかるヘアカラーカップ1は、染料としてのヘアカラーaを入れるべくほぼ半球形状に凹んで形成され、上面が開口した液溜め部10を有するカップ部11を有している。このカップ部11の外側には、カップ部11を保持するためのハンドル部12が設けてある。

【0011】

カップ部11の内面上方（液溜め部10の上方）には、複数の櫛歯15が並べて設けてある。この実施の形態では、カップ部11の内面上方においてハンドル部12の基部が取り付けられている箇所の近傍に凹部16が形成されており、この凹部16に、垂直上向きの複数の櫛歯15がほぼ等間隔の隙間を空けて平行に並べて配置されている。各櫛歯15は長さが等しく、各櫛歯15の上端高さは、カップ部11の開口上端部とほぼ等しい。

【0012】

前述のように半球形状に凹んで形成された液溜め部10の内面には、計量用の目盛となるアラビア数字17が記載されている。このように液溜め部10の内面に記載された各アラビア数字17は、10単位で上方ほど大きい数字となっており、液溜め部10に入れられたヘアカラーaの液面の高さに最も近いアラビア数字17を読むことによって、ヘアカラーaの量(cc)を把握できるようになっている。なお、ヘアカラーカップ1をどのような向きから見てもアラビア数字17を読めるように、液溜め部10の内面において3方向の位置(120°間隔)にアラビア数字17が記載されている。

【0013】

カップ部 11 の外面には、水平方向に伸びる環状の溝 20 が複数段（図示の例では 3 段）に形成されている。これら各溝 20 の直径は、下の溝 20 ほど小さい。また、各溝 20 同士の間は、下に向って絞られた凸曲面になっている。

【0014】

また、カップ部 11 の外面上方には、カップ部 11 の上端から外側に突出する注ぎ口 21 が形成されている。カップ部 11 の底面には、複数箇所（例えば 5 箇所）にスポンジゴム 22 が埋め込んである。

【0015】

ハンドル部 12 は、その基部から順に幅広部 25、中間部 26、幅狭部 27 の 3 つの部分で構成されており、幅広部 25 と中間部 26 の間に溝 28 が形成され、中間部 26 と幅狭部 27 の間に溝 29 が形成されている。これら幅広部 25、中間部 26、幅狭部 27 には、上下方向に貫通する平面視で楕円形状の孔 30、31、32 がそれぞれ設けられている。これらのうち、幅広部 25 に設けられた孔 30 が最も大きく、幅狭部 27 に設けられた孔 32 が最も小さく、中間部 26 に設けられた孔 31 は、幅広部 25 の孔 30 と幅狭部 27 の孔 32 の中間程度の大きさである。

【0016】

ハンドル部 12 を横から見ると、ハンドル部 12 の中心線 L が上に凸となるように湾曲しており、かつ、中心線 L がハンドル部 12 の先端（カップ部 11 の外側に取付けられるカップ部 11 の基部と反対となる端側）に向って下がるように、僅かに傾斜して設けられている。

【0017】

また、ヘアカラーカップ 1 を上から見ると、カップ部 11 の外面上方に形成されている注ぎ口 21 の位置を示す中心線 L' と、ハンドル部 12 の中心線 L とは、90° よりも大きい角度で交差するように、注ぎ口 21 とハンドル部 12 の位置関係が設定されている。

【0018】

さて、理髪店や美容院などにおいて、この実施の形態にかかるヘアカラーカップ 1 を用いて毛染めを行う場合、理容師や美容師は、椅子に座った顧客の近くの

ワゴンの上やサイドボード、テーブルなどの上にヘアカラーカップ1を置き、椅子に座った顧客の頭部近くにヘアカラーカップ1を置く。この場合、ワゴン等の上面にヘアカラーカップ1を載せて置く場合であれば、カップ部11底面の複数箇所埋め込まれたスポンジゴム22がワゴン等の上面に接触するので、平らなワゴン等の上面にヘアカラーカップ1をぐらつかせずに安定させて置くことができる。なお、カップ部11の底面において5箇所埋め込まれたスポンジゴム22を埋め込んだ場合は、一本の連続したゴムリングをカップ部11底面に配置した場合やカップ部11底面の3、4箇所にスポンジゴムを埋め込んだ場合に比べてより安定する。

【0019】

また、図5に示すように、ワゴン等の上面40にはヘアカラーカップ1を保持するための円孔41が設けられている場合もある。そのような場合は、カップ部11の下半部を円孔41に挿入することによって、ヘアカラーカップ1を更に安定させて保持することができる。その場合、このヘアカラーカップ1にあつては、カップ部11の外面が全体として下に向って絞られた凸曲面に形成され、かつ、カップ部11外面には、下に行くほど直径が小さい溝20が複数段に形成されている。このため、図5に示すようにカップ部11の下半部を円孔41に挿入した場合は、適当な溝20の箇所でカップ部11外面が円孔41に嵌り込んだ状態となり、ぐらつかずに安定してヘアカラーカップ1が保持される。

【0020】

そして、染料としてのヘアカラーaをヘアカラーカップ1の液溜め部10に入れる際には、カップ部11内面（液溜め部10）に計量用のアラビア数字17が記載されているので、理容師や美容師は、液溜め部10に入れたヘアカラーaの液面の高さに最も近いアラビア数字17を読むことによって、ヘアカラーaの量（cc）を容易に把握できる。この場合、液溜め部10の内面に3方向の位置（120° 間隔）にアラビア数字17が記載されているので、ヘアカラーカップ1をどのような向きから見てもアラビア数字17を読むことができる。

【0021】

そして、理容師や美容師は、例えばブラシ45の先端のブラシ部46をヘアカ

ラーカップ 1 の液溜め部 10 に入れ、ヘアカラー a 中にブラシ部 46 を浸す。こうしてブラシ部 46 にヘアカラー a を付着させて、液溜め部 10 から掬い取ったヘアカラー a を顧客の毛髪に塗布する。

【0022】

このように液溜め部 10 からヘアカラー a を掬い取る際には、液溜め部 10 が半球形状に凹んだ形状であるので、液溜め部 10 に入れられたヘアカラー a が横に広がらず、液溜め部 10 の底部中央に集まるので、ヘアカラー a を掬い取りやすい。

【0023】

そして、顧客の毛髪に塗布する際にブラシ部 46 に付着したヘアカラー a の量が多過ぎるような場合は、図 6 に示すように、カップ部 11 の内面上方に並べて設けられた複数の櫛歯 15 にブラシ部 46 を押し当て、ブラシ 45 を動かしてブラッシングすることにより、余分なヘアカラー a をブラシ部 46 から容易に削ぎ落とすことができる。また、このように櫛歯 15 にブラシ部 46 を押し当ててブラッシングすることにより、ブラシ部 46 の形も整えることができる。こうして、形を整えたブラシ部 46 に適量のヘアカラー a を付着させて顧客の毛髪に塗布することにより、作業がやりやすくなり、また、途中でヘアカラー a がブラシ部 46 から垂れたりすることがない。

【0024】

また、このようにブラシ 45 で顧客の毛髪にヘアカラー a を塗布していると、毛髪やほこりなどがブラシ部 46 に付着することがある。そのような場合にも、図 6 に示すように、カップ部 11 の内面上方に並べて設けられた複数の櫛歯 15 にブラシ部 46 を押し当て、ブラシ 45 を動かしてブラッシングすることにより、ブラシ部 46 に付着した毛髪やほこりなどを、手を汚さずに容易に除去することができる。

【0025】

そして、櫛歯 15 によってブラシ部 46 をブラッシングした際には、ブラシ部 46 からヘアカラー a が垂れることになるが、そのようにブラシ部 46 から垂れたヘアカラー a は、凹部 16 に受取られた後、カップ部 11 の内面を伝わって液

溜め部 10 に流れ落ちるので、カップ部 11 の外側に垂れることがなく、周りを汚さない。

【0026】

また、このように櫛歯 15 によってブラシ部 46 をブラッシングする場合、ハンドル部 12 の基部が取り付けられている箇所近傍に櫛歯 15 が並べて配置されているので、図 6 に示すように、ブラッシングする際に、ブラシ 45 を持っていない方の手でハンドル部 12 を押えることにより、櫛歯 15 を安定させることができ、ブラッシングしやすい。

【0027】

そして、作業を中断する等、ブラシ 45 を使わない場合は、図 5 に示すように、ブラシ部 46 を上にした姿勢でブラシ 45 を孔 30 に差込んでおくことにより、ワゴン等の上面 40 を汚さずに、ブラシ 45 を立てておくことができる。

【0028】

また、ハンドル部 12 を握ってヘアカラーカップ 1 を手に持つ場合は、ハンドル部 12 全体が凸となるように湾曲し、ハンドル部 12 の先端に向って下がるように傾斜しているので、ハンドル部 12 が手から抜け落ちにくく、ヘアカラーカップ 1 が重たい場合でも、滑らずにしっかりと保持することができる。

【0029】

また、ハンドル部 12 を持ちながら液溜め部 10 に入れたヘアカラー a を注ぎ口 21 から流し出す場合、注ぎ口 21 とハンドル部 12 が 90° よりも大きい角度で交差するような位置関係となっており、ヘアカラー a を注ぎ口 21 から流し出す作業がしやすい。

【0030】

以上、本発明の好ましい実施の形態の一例を示したが、本発明はここに例示した形態に限定されない。例えば、カップ部 11 の上端面に櫛歯 15 を並べて設けても良い。また、櫛歯 15 の向きは、鉛直方向に限らず、横に向って突出する櫛歯や斜め上向きもしくは斜め下向きに向って突出するような櫛歯であっても良い。また、櫛歯 15 の配置は、ハンドル部 12 の基部が取り付けられている箇所近傍に限られず、ハンドル部 12 の基部から離れた位置に櫛歯 15 があっても良

い。また、このヘアカラーカップ1は、透明な材料で構成すれば、外側から液溜め部10に入れたヘアカラーaの色や量なども容易に目視できる。また、透明な材料で構成されていれば、カップ部11外面に形成されている溝20をカップ部11の内面から見ることができ、溝20を基準にしてヘアカラーaの量を把握することも可能となる。例えば、リタッチ用にヘアカラーaの量を少なくしたり、全頭用にヘアカラーaの量を多くしたりすることも容易となる。

【0031】

また、カップ部11内面（液溜め部10）に凸部を適宜配置することにより、混ざりにくいクリーム等もダマにしないで混ぜることができ、短時間で乳化させることも可能となる。その場合、カップ部11内面（液溜め部10）に形成する凸部は、縦線上、環状線上等、任意の位置に配置することができる。

【0032】

その他、ハンドル部12やカップ部11外面bなどをエッチングすることにより、全体として滑りにくいヘアカラーカップ1を提供できる。

【0033】

本発明の染料カップは、ヘアカラーカップに限らない。例えば画材やその他の塗料など、種々の染料をいれる染料カップに適用できる。また、その容量も任意であり、例えば、300cc、1リットル等、種々の容量のカップを提供できる。

【0034】

【発明の効果】

本発明によれば、ブラシ等から余計な染料を削ぎ落としたりブラシ部などの形を整え作業が容易にでき、また、ブラシ等に付着した毛髪やほこりなどを手を汚さずに除去できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの平面図である。

【図2】

本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの側面図である。

【図 3】

図 1 における X-X 線断面矢視図である。

【図 4】

図 1 における Y-Y 線断面矢視図である。

【図 5】

本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの使用状態の説明図である。

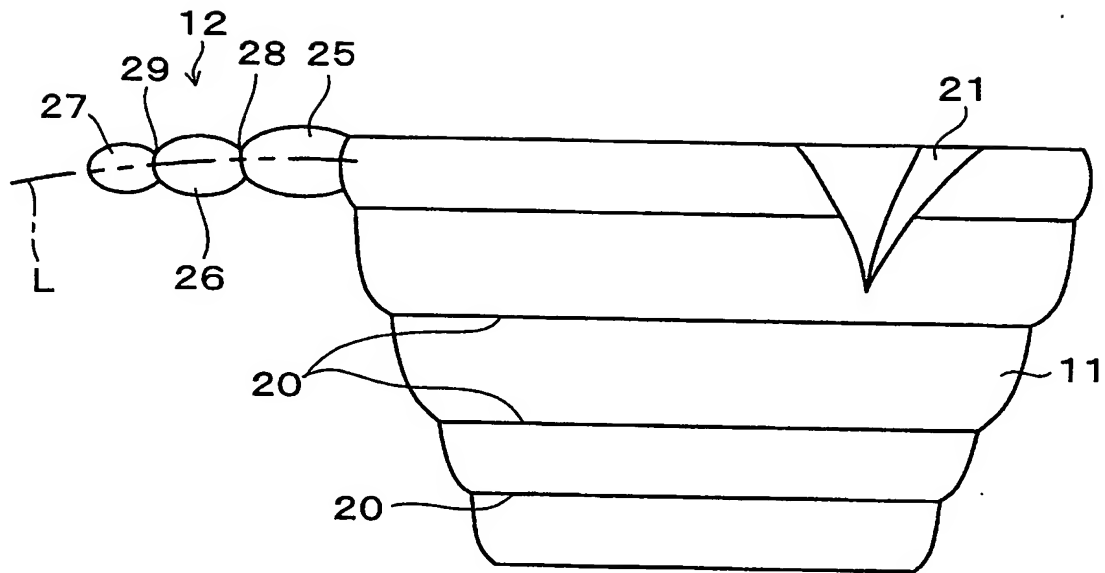
【図 6】

本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの使用状態の説明図である。

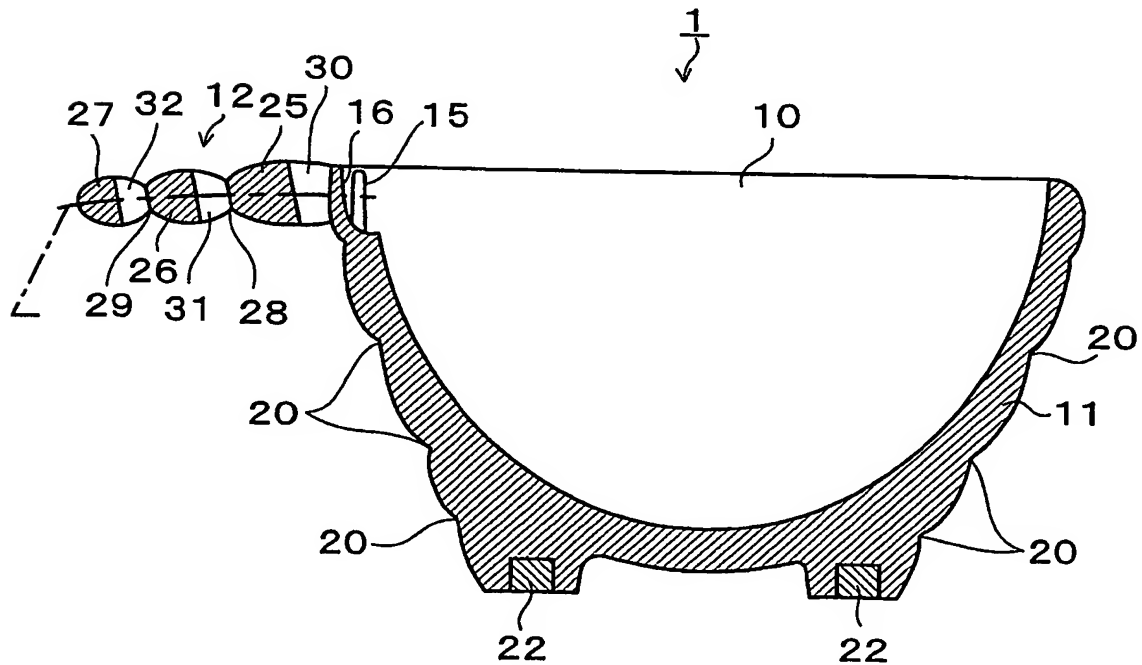
【符号の説明】

- 1 ヘアカラーカップ
- a ヘアカラー
- 10 液溜め部
- 11 カップ部
- 12 ハンドル部
- 15 櫛歯
- 16 凹部
- 17 アラビア数字
- 20 溝
- 21 注ぎ口
- 30, 31, 32 孔
- 45 ブラシ
- 46 ブラシ部

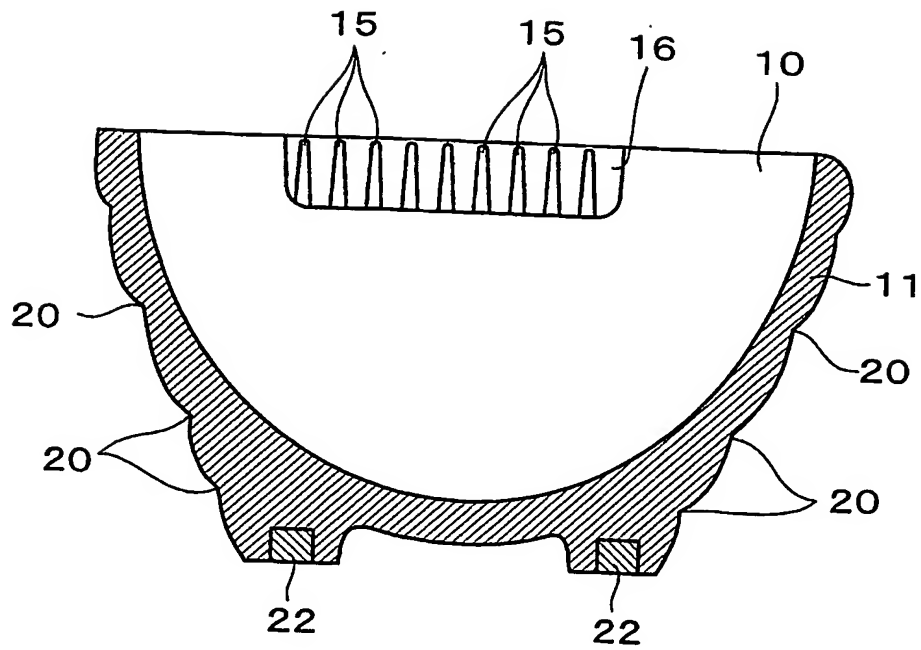
【図 2】



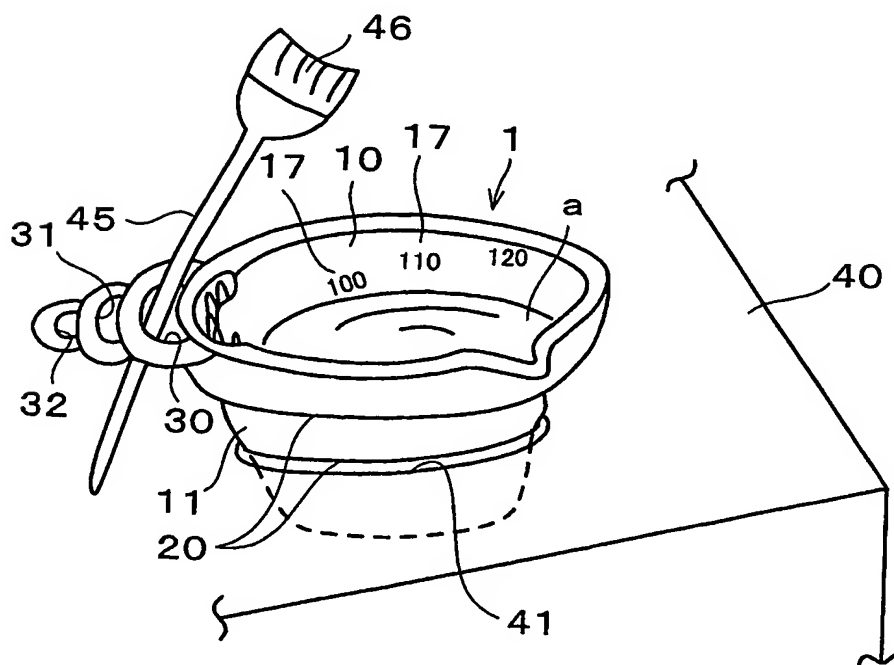
【図 3】



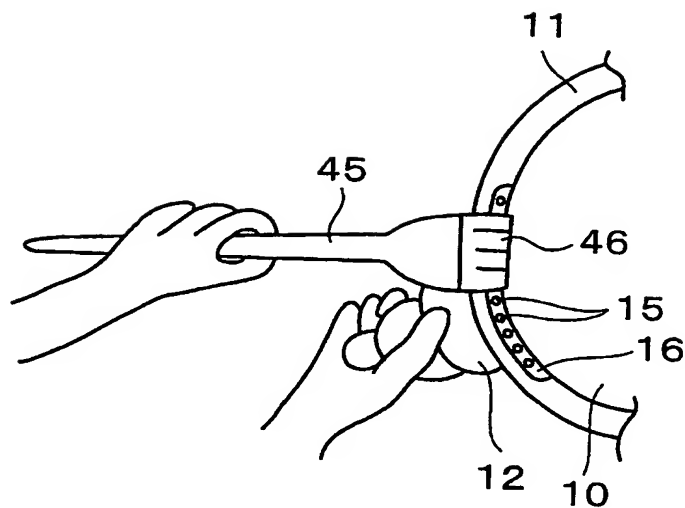
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ブラシ等から余計な染料を削ぎ落としたりブラシ部の形を整える作業が容易にでき、また、ブラシ等に付着した毛髪やほこりなどを手を汚さずに除去できる染料カップを提供する。

【解決手段】 染料を入れるための上面が開口したカップ部10を有し、カップ部10の上端面もしくはカップ部10の内面上方に、櫛歯15が並べて設けられている染料カップ1である。櫛歯15でブラッシングすることにより、ブラシから余分な染料削ぎ落としたりブラシ部の形も整えることができる。また、ブラッシングによってブラシに付着した毛髪やほこりなどを、手を汚さずに除去できる。

【選択図】 図1

特願 2003-107643

ページ: 1/E

出願人履歴情報

識別番号

[395021860]

1. 変更年月日
[変更理由]
住 所
氏 名

1995年10月31日
新規登録
東京都世田谷区下馬4丁目21番9号
株式会社パークウェイ